

特集 臨床工学技士の 働き方・キャリアアップ



編集責任

北陸大学医療保健学部医療技術学科

嶋津秀昭 SHIMAZU, Hideaki

臨床工学技士法制定から30年が経過し、本年、2018年3月に行われた第31回国家試験の合格者を含めると、臨床工学技士の有資格者は43,550人となった。そんななか、厚生労働省調査では医療現場で働く臨床工学技士数は23,000人といわれており、国家資格取得後に医療現場以外で働く臨床工学技士の数もかなり多く、また、臨床工学技士養成施設卒業後に大学院へ進学する学生もいることから、「臨床工学技士養成施設卒業後の進路」が多様化しているともいえる。

本誌では毎年7月号で、臨床工学技士養成施設やその学生に関する教育面、臨床現場で働く臨床工学技士の労働面やキャリアアップに関する特集を企画しており、今年は前述の状況を踏まえ、「Part 1 養成施設卒業後の道」「Part 2 学会専門認定によるキャリアアップの道」という2部構成とした。

Part 1では、臨床工学技士養成施設卒業・臨床工学技士の国家資格を取得した後の進路(働く場)として、医療現場、メーカー、養成施設における教員、行政機関で働く臨床工学技士に、それぞれの進路を選んだ理由や、現在、どのような業務に従事しているかについて執筆してもらった。また

就業ではないが、進路の1つである大学院進学については、養成施設卒業後、すぐに大学院へ進学した場合と、一度臨床現場で働いてから大学院へ進学した場合について、それぞれ執筆してもらった。学生時代の卒業研究や臨床実習が大きな契機になったということが多いようである。これから実習や卒業研究に取り組むであろう養成施設の学生には、卒業後の進路を考えるに当たりとても参考になると考えている。

Part 2では、臨床工学技士としてのキャリアアップとして、専門認定取得に焦点を絞り、各専門認定を取得した臨床工学技士に認定を取得した理由や、認定取得を現在どのように業務に活かしているかについて執筆してもらった。日々の業務を行いながら認定取得のための勉強を行うには、かなりの努力を要すると思われるが、取得の過程において身に付いたスキルや、職場でのキャリアアップについても述べられており、認定取得を目指す読者に大いに参考になるとと思われる。

以上のように、本特集は学生にも、また臨床現場で働く臨床工学技士にも役立つ内容であると考えている。ぜひ手に取り、参考にしてほしい。